4年 国語

# 短歌・慣用句

4年　　組

名前

1 短歌を五七五七七に分けて、（　）にひらがなで書きましょう。
また、その意味を選んで、□にア・イ・ウの記号で書きましょう。

① 奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の声聞くときぞ秋は悲しき
（　）（　）（　）（　）（　）　□

② 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる
（　）（　）（　）（　）（　）　□

③ 久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ
（　）（　）（　）（　）（　）　□

㋐ 秋が来たのは目にははっきり見えないけれど、風の音にそのおとずれをはっと気づかされたよ。

㋑ 日の光が差すのどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく、桜の花は散っていくのだろうか。

㋒ 奥山で散りつもった紅葉の葉をふみわけながら鳴く鹿の声を聞くときこそ、秋をもの悲しく感じる。

2 □の中から一つ選んで、①～⑤の慣用句を完成させましょう。

① （　）にたこができる
② （　）にあまる
③ （　）をあかす
④ （　）が立たない
⑤ （　）が軽い

歯　耳　口　目　鼻

小学館「みんなの教育技術」（https://kyoiku.sho.jp/）　イラスト／嵩瀬ひろし